

感動詞「あら」について

－1970年代・1980年代の使われ方に注目して－

加藤恵梨(大手前大学)

1. はじめに

本研究の目的は、主に1970年代・1980年代において、感動詞「あら」がどのように使われているのかを明らかにすることである。先行研究では「あら」は主に女性が用い、驚く声などを表すと記述されている。また、現代のポピュラーカルチャーなどにおいて、女性の中でも特に上流階級や裕福な家庭のお嬢様・奥様が使用している例が見られることから、役割語の一種と考えられ、「女ことば」や「おネエことば」として用いられることもある。最近ではそのような使われ方をしていることが多いが、1970年代・1980年代の資料を見ると、様々な年齢層の女性が用い、「あら」は驚いた時に発する語として使われるだけでなく、多様な使われ方をしていることが分かる。本研究では、NHKで放送された『中学生日記』および『現代日本語書き言葉均衡コーパス』をもとに、1970年代・1980年代に「あら」がどのような場面で、どのような使われ方をしているのかについて分析する。

2. 先行研究の記述と検討

『現代感動詞用法辞典』は「あら(っ)」について(1)から(3)を挙げ、次のように記述している(pp. 20-21)。

- (1)① (にわか雨) あら、大変。洗濯物を干したまま出てきちゃったわ。
- ② (娘の妊娠) こないだまで子供だったのにねえ、もう子供ができたなんて。あら、嫌だ。あたし、おばあちゃんじゃないの。
- ③ (玄関前の捨て猫) あらまあ、こんなところに猫の赤ちゃんが……。
- (2)① あらっ、誰？ こんなところに機密書類出しっぱなししてるのは。
- ② (刑事ドラマ) あらっ、そういえば奴は事件当日、早退したよな。
- (3)① (一仕事終えてソファに腰を下ろす) あら、どっこいしょ。
- ② (重い物を動かす) あら、よっと。

まず(1)については、問題に気づき驚く声を表し、主に中年以上の女性が用いと述べている。また、音調はH(話し手の音域での高い声) M(話し手の音域での中ぐらいの声) の2拍で、最初の「あ」にはしばしばアクセントがつくと指摘している。

続いて(2)については、意外な真実に気づき、問題視する声を表し、「あらっ」の形で後ろに声門閉鎖を伴い、男女を問わず文頭に用いと述べている。音調はL(話し手の音域での低い声) Hの2拍で、比較的強い声で発音され、抗議や非難(①)・疑念(②)などの暗示があると指摘している。

さらに(3)については、掛け声に先立つ勢いづけの声を表すと述べている。音調は前打音のようにMまたはLで軽く発音され、後ろに続く「どっこいしょ」「よっ」を導き出すための勢いづけの声であると指摘されている。

本研究では、(1)の音調がHMの2拍で、最初の「あ」にしばしばアクセントがつくものを分析対象とする。『現代感動詞用法辞典』は(1)の「あら」について、主に中年以上の女性が用い、問題に気づき驚く声を表すと述べているが、それ以外の用法で使われることはないのだろうか。

次に『役割語』小辞典』を見ると、「あら」について次のように記述している(pp. 16-17)。

- 何かに驚いたり、感動したりした時に発する言葉。もっぱら(女ことば)〈おネエことば〉として用いられる。
- ▶ 現代のポピュラーカルチャーなどにおいて、女性の中でも特に上流階級や裕福な家庭のお嬢様・奥様が使用して

いる例が見られる(女ことば)〈お嬢様ことば〉(奥様ことば)。(中略)▶これらの源流は、近代に流行した(女学生ことば)にあると考えられ、同じく〈女学生ことば〉として流行った、文末に「てよ」「だわ」を付ける「てよだわ言葉」とともに次のように使用されている。※小説 吾輩は猫である(夏目漱石)〔一九〇五—〇六〕「(女学生の雪江) あらいやだ。よくつてよ。知らないわ」▶なお、使用者はお嬢様・奥様に限られるのではなく、女性一般にも用いられている。

『(役割語)小辞典』は、「あら」は「何かに驚いたり、感動したりした時に発する言葉」であり、女性一般に用いられるが、現代のポピュラーカルチャーなどにおいては、女性の中でも特に上流階級や裕福な家庭のお嬢様・奥様が使用している例が見られると述べている。このように『(役割語)小辞典』では、「あら」は驚いた時だけではなく、感動した時にも使われると指摘されているが、感動した時とは具体的にどのような場合であろうか。

本研究では、様々な年齢層の女性が「あら」を用いている1970年代と1980年代に注目し、NHKで放送された『中学生日記』および『現代日本語書き言葉均衡コーパス』をもとに、1970年代・1980年代に「あら」がどのような場面で、どのような使われ方をしているのかについて分析する。

3. 「あら」の分析

3.1 何かに気づいた時に発する語

(4) (AからCは女子中学生)

A:「ちかこったらこのごろしょっちゅう職員室行くのね」

B:「よっぽどすきなね、職員室」

C(ちかこ):「やだ、そんなんじゃないわ。あら、先生、机の上に上着おきっぱなし。先生、タバコなくて困ってるかも」(中学生日記『わたしだけのせんせい』(テレビ音声), 1976年4月25日放送)

(5) 母さんからせしめた臨時収入はたったの二千円だったので、さすがにワンピースはあきらめたけど、おこづかいを少し足して水玉のブラウスを買った。この間それを買って帰って来た時は、母さんに「あら、それいいわねえ」とハイエナみたいな目で見られてしまい、思わず「安もんよ、母さんみたいなハイレベルな女には似合わないわよ」とか何とか言ってようやく取り上げられずに済んだのだ。

(LBa9_001041986 唯川恵『少しだけラブストーリー』1986年)

まず(4)は、先生が机の上に上着をおきっぱなしにしていることに気づき、「あら」と発している。続いて(5)は、母親が娘の買ってきたブラウスに気づき、「あら」と発している。(4)と(5)のように、「あら」は何かに気づいた時に発する語として使われている。

3.2 驚いた時に発する語

(6) (AからCは女子中学生)

A:「としえねえ、週5回も塾に通ってるんだって」

B:「あら、そんなにしないと進学できないのかしら」

C:「2学期になってからさ、みんな通い出したらしいよ」

(中学生日記『ふと立ち止まった時に』, 1980年9月28日放送)

(7) (AとBは女子中学生)

A:「さあ、あしたの2回戦にそなえて練習よ」

女子中学生のクラスメイト全員:「オーケー」

B:「あら、クラスボールがないわね。どこへ行っちゃったのかしら」

(中学生日記『クラスボールはだれのもの』(テレビ音声), 1976年10月3日放送)

まず(6)は、クラスメイトである女子中学生(としえ)が週5回塾に通っているということを聞いて驚き、「あら」と発している。続いて(7)は、バレーボールの練習をしようと思い、クラスボールを取りに来たが、いつも置いてある場所に

ないので驚き、「あら」と発している。先行研究でも指摘されているように、「あら」は「驚いた時に発する語」としても使われることがある。3.1 では、何かに気づいた時に発する「あら」を見たが、気づいた内容の衝撃が大きければ、3.2 のように驚きとなる。また、驚きの感情は、予想外の良くないことが起こった場合に生じることもあるし、逆に、予想外の良いことが起こった場合に生じることもある。前者の場合には3.3の「反対の意見を述べる時に発する語」、3.4の「非難する時に発する語」として使われ、後者の場合には3.5の「ほめる時に発する語」あるいは3.6の「声をかける時に発する語」として使われる。

3.3 反対の意見を述べる時に発する語

- (8) 「トミちゃんはずいぶんいろいろ勉強してるらしいじゃないか」と、信介は言った。
「あら、そんなことー」
トミちゃんは微笑して、「まあ、いろいろ緒方さんにご指導いただいておりますけれども」
(OB1X_00023 五木寛之『青春の門』1976年)
- (9) 「男なら、居るんだけどなあ。時間がふんだんにあるというのが」
「男のひとではだめよ」和代は、そういつてから、「でも、だれのこと」
「笹上さんさ」
「ああ…」
「男のひとり者って、案外、使いものにならないんだなあ」
「ほんとよ。…あら、そんなこといいいかしら」 (OB1X_00152 城山三郎『毎日が日曜日』1976年)

まず(8)は、「ずいぶんいろいろ勉強してるらしいじゃないか」と言われ、そんなに勉強していないというように、相手の発言と反対の意見を述べる際に「あら」と発している。続いて(9)は、相手の「男のひとり者って、案外、使いものにならないんだなあ」という意見に賛成したものの、「そんなこといいいかしら」と考え直し、自分の発言と反対の意見を述べる時に「あら」と発している。(8)と(9)のように、「あら」は反対の意見を述べる時に発する語としても使われる。

3.4 非難する時に発する語

- (10) 「ここは自分の家じゃないんだぞ」と、辻山の声がした。
「あら、昨夜は、アパートにいたのに、何もしなかったじゃない」と、幸子がむくれている様子。
(OB2X_00017 赤川次郎『探偵物語』1982年)
- (11) 当然、ポテトもさそった。だがどういものか、彼は断わった。
「わるいけど、ぼくはぼくで調べることがあるんだ。スーパーひとりで行ってきてよ」
「あら、ポテトも名探偵らしくなったわね。長年つきあってる私に内緒で、独断と偏見の捜査を開始するっていうの」
いやみをいってやったら、薩次は凸凹した顔を赤らめて、弁解した。
(LBd9_001501989 辻真先『東海道36殺人事件』1989年)

まず(10)は、相手から叱られ、発言者が「むくれている様子」で発言したとあるように、「あら」は非難する時に発する語として使われている。また(11)は、「あら」を含む発言について「いやみをいってやった」とあるように、相手の発言を非難する時に発する語として「あら」が使われている。(10)と(11)のように、「あら」は非難する時に発する語としても使われている。

3.5 ほめる時に発する語

- (12) (女性教師が男性教師の服装を見て)
「あら、その背広、お似合いになりますわよ」
(中学生日記『わたしだけのせんせい』(テレビ音声)、1976年4月25日放送)
- (13) 欠点を注意するのではなく、長所を探して発見し、それを認めてやり肯定してやるのです。「あら、この字はとて

もよく書けているわね」と、明るい調子でいってやればいいわけです。

(OB1X_00188 坂東義教『坂東先生の教育講座』1979年)

まず(12)は、女性教師が男性教師に、背広が似合っているとほめる時に「あら」という語を発している。また(13)においても、二重下線で示したように、「長所を探して発見し、それを認めてやり肯定してやる」時に、「あら」という語を発している。(12)と(13)のように、「あら」は相手をほめる時に発する語としても使われている。

3.6 声をかける時に発する語

(14) ビル街を遙か下に見下ろす喫茶スペースへと入って行った。ランチタイムには、サンドイッチやスパゲティを出すので、結構混み合う店なのだが、今は中途半端な時間で、客もほんの数人しかいない。

「あら、こんにちは」晴美も顔なじみなので、ウェイトレスが笑顔で声をかけて来る。

「どうも。—いいお天気ね。外は寒そうだけど」(OB3X_00202 赤川次郎『三毛猫ホームズと愛の花束』1988年)

(15) 父はひっそりとした笑いで、顔じゅう皺だらけにしなが、彼とさしむかいにどさりというふうにあぐらをかくと、座卓の上に両手を組み合わせた。諒子はその気配をすばやく聞きつけて、

「あら、いらっしゃいませ」と、にこやかに居間に来た。

「お、いたのか」

「はい。きょうはアルバイトが休みになりましたので」(LBc9_00030 岡田睦『乳房』1988年)

まず(14)は、ウェイトレスが客に声をかける時に発する語として「あら」が使われている。また(15)は、来客の気配を聞きつけやって来た話し手が、客に声をかける時に発する語として「あら」が使われている。(14)と(15)のように、「あら」は相手に声をかける時に発する語として使われることもある。

4. まとめ

本研究では、NHKで放送された『中学生日記』および『現代日本語書き言葉均衡コーパス』をもとに、1970年代・1980年代に「あら」がどのような場面で、どのような使われ方をしているのかについて分析した。その結果、「あら」は次の6つの場合に発する語として使われていることが分かった。

1. 何かに気づいた時に発する語
2. 驚いた時に発する語
3. 反対の意見を述べる時に発する語
4. 非難する時に発する語
5. ほめる時に発する語
6. 声をかける時に発する語

6つの使われ方の関連性については、1の「何かに気づいた時に発する」というのは、気づいた内容の衝撃が大きければ、2のように驚きとなる。また、驚きの感情は、予想外の良くないことが起こった場合に生じることもあるし、逆に、予想外の良いことが起こった場合に生じることもある。予想外の良くないことが起こった場合には、3の「反対の意見を述べる時に発する語」、さらに相手の意見に反対する程度が高くなれば、4の「非難する時に発する語」として使われる。一方、予想外の良いことが起こった場合には、5の「ほめる時に発する語」あるいは6の「声をかける時に発する語」として使われる。

今後は、1970年以前あるいは1980年以降の「あら」の使い方についても調査・分析していきたいと考えている。また、「あら」以外の感動詞についても調査し、年代や男女差によって使われ方に違いがあるのかについても明らかにしたい。

本研究は、NHK番組アーカイブス学術利用トライアルの成果の一部です。

参考文献

- 浅田秀子 (2017). 現代感動詞用法辞典 東京堂出版
金水敏 (編) (2014). 〈役割語〉小辞典 研究社